



TITLE:

(随想)老医学者の回想

AUTHOR(S):

生亀, 芳雄

CITATION:

生亀, 芳雄. (随想)老医学者の回想. 泌尿器科紀要 1967, 13(1): 1-2

ISSUE DATE:

1967-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113091>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 13 巻 第 1 号

昭和 42 年 1 月

随 想

老 医 学 者 の 回 想

関東通信病院部長 生 亀 芳 雄

長い人生をあゆんできた老人の想いで話には、後進の者の心をとらえるものがある。
外国では多くの有名な医学者が回想録を書いている。
わが国でもこのような本が先輩によってもっと多く出されたらよいのではなかろうか。
戦争が終って間もない昭和22年ごろと記憶しているが、内村祐之先生の「精神医学者の回想」という著書を読んだことがある。

その内にドイツ 精神医学界の 大家であるウオルレンベルグの 回想記が 紹介されてあった。

それによると大脳生理学がまだなにもわかっていなかったころ、ヒッチヒがはじめて大脳皮質を電気で刺戟して運動性の皮質があることを証明したようである。

彼はこの発見の基礎となった実験を、自宅の洗面所で奥さんを助手として達成している。
これは当時、ベルリン大学の生理学教室が王宮の近くにあったので、動物がさわがしいといけないという理由から、教室内で温血動物の実験がゆるされてなかったためである。

このことは才能と感興があれば、どんなところであろうと、科学上の発見も大詩人が屋根裏で詩をつくることができると同じように、十分な設備がなくともある程度はできる可能性を示唆しているといえよう。

またウオルレンベルグは著書の最後をつぎのような詩句で結んでいる。

「私にとって生涯の本当の幸福と思われることを終りにのべよう。それは、愛することのできる心を獲ること。値打ちのあることを少しでもすること。勤勉に生きること。立派に死ぬこと。それ以上を望むのは愚である。第1のことは私に一部できた。第2と第3のことは絶えず努めた。最後のことは私が希望している」 折にふれ今でもこの詩句を思いだし、本当に味のある詩句だと感心させられている次第である。

通信病院と通信博物館

ときおりたのまれて講演にゆくことがある。そんなとき必らずといってもよいほど聞かれることがある。それは通信病院という病院は一体どこに属する病院か、もう1つは同じ通信病院なのにどうして東京と関東の2つが東京にあるのかということである。

何れもごもっともな御質問で、昔は通信省という役所がたしかにあった。それならば通信病院は通信省関係の病院だろうぐらいのことは誰でも容易に想像できることである。

しかし現在はそんな役所はなく、通信大臣などという大臣もないわけである。

また、東京になぜ2つの通信病院があるかということは、この通信病院という名前が存続している理由を説明してゆくうちにおのずとわかってくることである。

日本に通信省が設置されたのは明治18年2月22日のことで、それ以後、今回の大戦がおきるまでは名称に変更はなかった。

ところが昭和18年11月に決戦下の体制として、通信省と鉄道省とをそれぞれ解体し新たに運輸通信省が誕生したわけである。

しかし戦争が終ったつぎの年の昭和21年7月に再び通信省が復活することとなった。

この復活した通信省も占領下の昭和24年6月にこんどは郵政省と電気通信省に分割されてしまった。

このときそれまで通信省がもっていた財産を公平に二分しあうことになった。その結果、病院も機械的に二分され、例えば札幌は電気通信省、仙台は郵政省、東京は郵政省、大阪は電気通信省というように分けられたわけである。

しかし、このように分けられても病院に関する限りは郵政省の職員と家族、電気通信省の職員および家族は何れの所属の病院にもかかれるようにすべきであるということになった。したがって病院に限りその名称は従来どうり通信という名で一本化するよりしかたがないということになったわけである。

なお、病院のほかにもう一つ博物館だけがやはり共有のものとして通信という名でそのままのこされている。

さて2省で共同に使用できるはずの東京通信病院はすでに昭和13年2月より診療を開始し、当時は評判の大病院であったが、時代と共にすでにその施設が狭いものとなってきた。

一方、全国を中心である東京に電気通信省に属する病院がないのはどうか、また全国の電気通信省の医療機関のセンターとしても東京にもう一つ通信病院をつくるべきだということになり、昭和25年8月にその設立が大臣決裁によって決定された。

このとき東京通信病院は今までどうりの名が良いというので、もう一つは関東通信病院となづけることに結着をみたわけである。

それからしばらくたって、昭和27年4月にサンフランシスコで調印された平和条約、安全保障条約が発効となり、この時を期して日本は再び独立をとりもどしたわけである。

この27年に行政改革と人員整理がおこなわれ、電気通信省は廃止され、8月1日に日本電信電話公社、通称、電々公社が発足したわけである。

したがって私のつとめている関東通信病院は電々公社に属する病院であるが、郵政省の職員および家族も対象とする職域病院である。

しかしあくまでも学問的に高度の基礎にたって診療することが第1の目標とされ、そのために必要な勉強、研究の完備に力をそそぎ、本社もその方針でいろいろと便宜を与えてくれている現状である。